

『極点』(20260218)

核心に触れた体験と分かち合いの必然

ありがとうございます。

昨日、少し言葉にさせていただいたんですが、この時代において、なぜこうしてこの祈り合わせが与えられ、私たちがこう寄せられているのか、その核心的な部分に深く繋がった感覚が在り、明日、もしかしたらそれを言葉にさせていただくかもしれない、ということをお伝えしましたが、

全く予想外にですね、私自身が昨日、ある領域に、必然があって一歩踏み込んだ中で、非常に久し振りですが、カルマ的な部分を体験しています。これは、とても規模が大きいので、私の個人的な領域を超えて、人類共通で生み出し、また光に変えていく重大なテーマなんでしょうけれども。

それは、自己の純粋性とか、愛について疑う、そこから来る混乱。これは、きっと小さいものではないですね。

ですから、昨日分かち合おうとしたことを、いや、実は今それどころではないと、先送りにすることは簡単なんです。が、まさに今こう、それを体験しているからこそ、今日こそ分かち合われるべきこの真実が、より力強い真実として共有できる、そういう必然を感じています。つまり、贈り物であると感じています。

これは私に限らずなんですけれども、この宇宙、この地球において、人がカルマ的な側面を体験するのは、全人類的、全宇宙的にそのカルマを光として体験し、光に返す。そのプロセスを代表して、預かり、引き受け、そこに身を投じている、愛、献身そのものです。全存在をかけた献身なんです。でもこれは、まさに成就された時にこそ実感される真実であって。それが果たされるまでの間、当事者は簡単ではないですよ。だからこそ磨かれる愛というのがあります。

極点で受け尽くすという道

今日分かち合われるべきことというのは、すべてを極点で体験するということですね。

極点。このカルマ的なものであれ、耐え難いほどの光、愛、至福であれ、どちらも自己の最奥で受け尽くしていくしかないです。最終的にそれ以外ありえない。それ以外では耐えられないです。自己の最奥で受け尽くす。

自己の最奥でどっち向いて受けていって言ったって、やはりそのさらに奥に、奥、奥に向かって、より深い極点に向かって、受けていくしかないんですね、やっぱり。

外側に対象を認識して、その一番奥、その極点について、そういうアプローチも確かにあるんですけど、この宇宙にカルマというものがある以上、やはり最終的には自己の最奥にて、さらにその奥に向かって、これしかないと思います。極まれば極まるほどね。

例えば、この道においてチャクラという概念がとても重要な意味を持っていたりします。宇宙のエネルギーセンターですね。それによって体が構成されている。この体験の主体が組み上がっていくために、どうしてもなされるべき重大なプロセスに、やっぱりチャクラというのがあります。

そのチャクラを意識して、例えばマントラを響かせるような時や、愛や祈りや意識を注ぐような時にもそうですね。なんとなくその領域にというのではなく、その奥の奥の奥の一点に、やっぱり、注ぐ必要があります。そしてまた、自分から光やエネルギーを空間に放つ時も、なんとなくただ自分の肉体領域や意識領域の外側にただ放たれればいいというのではなく、やはりその奥の奥の奥の極点に届かせていく必要があります。

カルマの中での在り方と救い

その極点というのは、常に同じ場所なんです。たった一つの唯一なる完全な意識。神の本体、自己の本体、万物の本体の純然たる愛。あらゆるものの極点が、この唯一なるものと繋がっています。

カルマ的なものに包まれ襲われた時も、自己の最奥に留まり、それをさらに奥の奥で体験していく。そのことを通して、これ以上のことはできないので、ジタバタせず、ただ、終わるのを待つしかないわけで、それが丸一日かかるが、一ヶ月かかるが、一生涯や数世代かかるが、これ以上はできないわけですから。

これ以上はできないことをしている時、我々は必ず救いを体験します。ホッとします。なので、混乱したままでもノーマルで在れます。

このカルマ的なものも確かに大きいんですけども、それよりも激しく、強烈なのはやっぱり至福、愛、喜びの爆発ですね。これこそ本当に最奥で最奥に向かって行く以外に、自分を支える方法はきっと存在しないと思います。

そしてこの最奥に届いた時に驚くことがあります。その極点に届いて響いた時に、その響きはすべての存在のすべての方面から、あらゆる次元で自分を中心にした宇宙に満たされるのです。最奥に響いたはずなのに、全体に満ちるのです。この体験を通して、極点は一つなんだということがはっきりと体験されます。

宇宙の再創造と祈りの本質

例えば、この耐え難いほどの至福に耐えかねて、どうしようもなく中心、自己の最奥で最奥に向かって体験をして、受け尽くした時に、その至福その光が、世界人類、宇宙万類にリアルタイムで共有され、この振動がまったく新たな違う宇宙を今再創造したというこの真実をはっきりと実感します。

宇宙は時間は、連続していないということは、もう地球の、まだ、到底完成に向かっていとは言えないほどに、物質次元に捕らえられた科学ですら、その科学の最先端ではっきりと証明されたそうです。一瞬一瞬、新たに新たに生み出されているんですね。すべてを束ねて、その総和を。

ですから、私たちの祈りの究極の目的は、今、新たに完全な光を全体に分ち合い、全く新しい宇宙を再創造することです。これが祈りの本質です。

自己の最奥にて、さらにその奥の極点に向かって、この耐え難いほどの至福を受け尽くした時に、それは全体とあらゆる存在と完全に共有されています。また、耐え難いほどのカルマをそのように受け尽くした時、その巨大なカルマが、カルマがあるのはこの地球だけではないですからね、宇宙規模で自分を通して光に変わったそのカルマは、その救済の光が、回路が、宇宙全体に共有され、もの凄くたくさんの同様の体験をしている人のカルマを終えたり、終わっていく光の道筋を開きます。これはどうしようもない真実です。

だから私たちは、不可抗力的に宇宙大の貢献しかできない存在です。

つまり、私たち一人一人は完全に神です。その自覚が目覚めた人と、未だ故あって敢えて目覚めない姿で貢献している神とが居るだけです。

呼吸の秘儀と最奥への到達

私はこの祈り合わせのメッセージを受けて初日を迎えたのが、2021年の12月の19日だったと思います。それから一カ月くらいしてから、非常に深いレベルの発願を受け入れていただいた形なんですけど、秘儀的な祈りに関しての深いアプローチを色々教えていただいたんですね、次々と。しかし、どれもが本当に生涯を掛けて深めるような立体的なテーマですので、とても消化できるペースではありませんでした。

そこで問うたんです。このような宝のような導きの中で、もし一つに絞るとしたらどれに集中したらよいでしょう、と聞いたら、「吸い切ることと吐き切ること集中しなさい」と教えていただきました。

この吸い切ることと吐き切ること集中していると直ぐに体験されるのが、呼吸とは空気の移動だけではないということです。この空気の移動に伴って生じる宇宙的なエネルギーの移動がありますが、それは空気を吸い切って吸い切ってこれ以上吸えないところまで吸い切ったとて、まだまだそのエネルギー領域はいくらでも吸えるという事実に出会います。吐き切るのも同様です。吐いて吐いて吐き切って空気が一切自分の中から無くなっても尚、いくらでもまだまだ、その本源的な生命エネルギーが、神エネルギーがまだまだ吐き出せていける。その圧倒的な質量、ボリューム、規模感に、驚きます。そうか、そうか、呼吸とはこんなに立体的で、圧倒的で無限だったのかということ学びます。

しかし、それだけではありませんでした。だいぶ時間が掛かりましたけれども、昨日の朝の祈りの中で、すべてを最奥にて、さらにその奥の奥の奥の極点で、内側に対しても外側に対してもあらゆるものに対して、さらに奥の奥の極点で極点で極点で、その極点こそが唯一なる真実で、すべてと繋がっている、本当にたった一つのすべてのすべてなんです。

吸い切ることと吐き切ること集中しなさい、というこの真実は、実は、このことだったんだと、やっとやっとわかりました。

4年数カ月の歳月が掛かりましたが、この珠玉のメッセージを完全に受け尽くせた、その実感に出会いました。

一体なる、尊く愛おしき誓願

ババジは、「この地球に縁の深い全ての魂が完全なる神実現を果たすその時まで、この星に留まろう」と、約束してくださいました。これは偉大な約束です。

別にこの宇宙的な真実において、それが必要なわけではないんです。なぜなら、ずっとずっと真実は成就しているからです。貴い体験がなされるのはこの地球に限ったことではないです。これは限りなく尊い贈り物だけれども、執着する対象ではないし、ここで成就できるできないに関わらず、一人一人は完全に神に回帰します。これはもう「定め」なんです、避けようがない。

しかも、常に最も尊い形、最も輝かしい形で成就するように、はじめから設計されているんです。だから、この今こうして与えられている、この地球という尊い星で、私たち人類が最も尊い形で神なる自己に回帰する、というこの贈り物をどういった形で受け尽くすのか、というのは、別にことさらテーマにする「必要」はないんです、必要はないんです。ただ、ババジが無限の愛として、その自由意思において、約束して下さった尊い尊い贈り物です。

私は彼の導きに在り、彼に帰依することをお許しいただいた一存在として、彼がそれを選ぶ以上、他の選択をする理由がありません。ですから私も、この地球に縁の深いすべての魂が神なる自己に回帰する、その一点にすべてを捧げる、だけです。理由は、ババジがそれを選んでいるから。

そして私自身がやはり、それを望み選んでいるからです。それが必要だからではなく、ただ、それがあまりにも尊く、愛おしく感じられるからです。

祈り合わせという奇跡

ですからね、このチャンネルにおいて、究極の真実を分かち合っている、とても縁の深い方々が、全て、この祈り合わせを大切に共有し、日々共に祈っているかということ、そうとは限らないわけですが、全くそういうところにとらわれず、ただ純然たる光として自由に光を放っている方々がいっぱいいます。その方々の最高の輝き方はやはりあります。

ですから、この朝の祈り合わせは一つの究極ですが、唯一の答えではありません。

しかし、私にとっては、やはり究極の唯一なるものと言えます。あらゆる瞬間をこの祈りで埋め尽くしたいんです。

なぜ私たちがこうしてここに寄せられているか。

ここから先は言葉を添える必要がない世界ですよね。言うだけ野暮です。お一人お一人が深く実感して、そこにこそ真実があります。

本当に本当に、この祈り合わせがどれほどの奇跡なのか。

込み上げるものはまさに無限です。存在に感謝しています。本当に本当にありがとうございます。

それでは、本日もこの限りない恩寵に満ちた、一体の祈りを共に捧げたいと思います。

どうぞどうぞ、よろしく願い致します。 ///以上///